

## 5 我が班の無災害25年のあゆみ

一関営林署 ○畠山 義 男  
平 沢 光 次

### 1 はじめに

当千厩造林班は、岩手県の最南端、東磐井郡の6町村にまたがる区域を管理する千厩森林事務所に所属し、造林事業を中心に作業をしている。

管内は積雪量が少なく、丘陵地帯ということもあって、比較的恵まれた作業環境にある。

現在の班員は基幹作業職員8名ですが、全員が室根村津谷川地区の出身で、昔から気心の知れた仲間であり、何事も気軽に話せる明るい職場である。

当造林班は、安全に対する意識も高く、班員全員の創意工夫による安全活動を行い無災害を続けているので、それについて発表するものである。

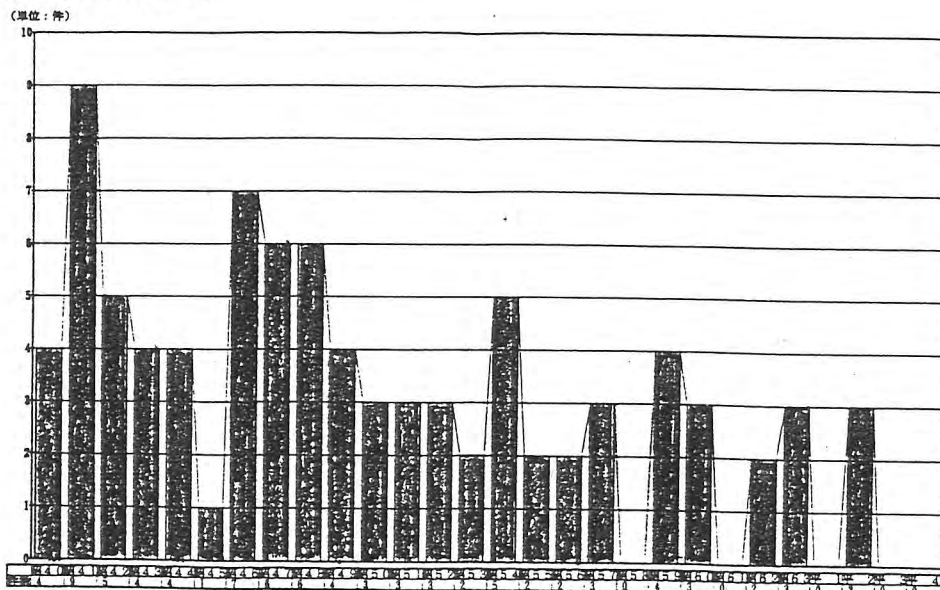
### 2 災害発生状況

一関営林署の災害発生状況を述べると、昭和41年度の9件を最高に年々減少傾向をたどり、昭和58、61、平成1、3年度には無災害を樹立し、平成4年度も無災害を継続中で、今年の1月末現在、連続無災害日数694日となっている。

こうした中であって、当千厩造林班は昭和42年7月13日以来、25年7か月間、連続無災害日数9335日、時間にして約41万時間の無災害を記録し、今日に至っている。

表-1

年度別災害発生件数



### 3 主な安全活動

#### (1) 安全当番制の確実な実施

##### ア 実施方法

当班は、昭和42年7月に転倒による災害を記録したことを契機に、25年前から安全当番制を実施し、現在もなお継続し実行している。

実施方法は、二人一組による四つの組を作り、一週間交替の当番で行っている。

この組み合わせは1年とし、毎年4月1日には組替えをする。

これは安全意識の再確認と、マンネリ化を防ぐためである。

##### イ 安全当番の任務

###### (ア) 週目標の決定 (写-1)

月曜日の朝、一週間の安全目標をたてる。

先ずミーティングの中で、当番が中心になり皆で話し合っ、二つ位の安全目標を決め、作業現場等に掲示する。(写-2)

###### (イ) 安全日誌の記入

当番が週目標や、当日の作業を振り返り、作業基準等に基づいた点検項目に従って、その日の結果を点検記入する。

###### (ウ) 毎日のミーティングのリードと、当日の具体的実施目標の決定

安全当番がミーティングのリードをし、当日の作業内容等から、具体的安全作業の方法について意思統一して、当日の実施目標とする。

当番になったものが中心になり、必ず全員が一言は話すことにしたことにより、安全に対する取組を強く意識することに結びつける。

###### (エ) 体操のリード (写-3)

作業開始前の体操は、当番が中心となり、全員が輪を作って、お互いの顔を見ながら実施し、健康状態をチェックし合う。

###### (オ) タッチアンドコールの実施 (写-4)

当日の実施目標を復唱し「今日も無事故で行こう」「ヨシ」の力強い掛け声で、尚一層身を引き締めて作業に入る。

#### (2) ビデオの活用 (写-5)

作業状況をビデオにより撮影し、安全懇談会等に活用している。

無災害が続いていることにより、安全対策がマンネリ化し、自分では不安全行動と気づかない点や、普段の作業で不安全作業とは思わなかった点が、ビデオを活用することによって、不安全作業を排除し改善する。

#### (3) 作業用具の工夫 (写-6~8)

当地方はつる類、特にクズの繁茂している造林地が多く、毎年そのクズ処理に追われている。

その処理には、主にクズに効果のあるケイピンを使用しているが、クズの根にケイピンを刺す場合、鉋で周囲を刈払い、手でクズの根を出すのでは、鉋につるが絡むこともあり鉋による災害や、マムシ咬まれ危険もあった。

そこで根を出す道具として「かっちゃ」を考案した。

これは木の枝を利用し製作したもので、軽くて使い易く、作業上も効率的である。

なによりも良かったことは、鉋災害とマムシ災害の防止が図られたことである。

#### (4) ヒヤリ・ハット表の活用

ヒヤリ・ハット表は安全日誌と一緒にしており、ヒヤリ・ハットがあった場合は、作業終了後、表に記入し、その日の夕方のミーティングで原因、予防対策等について皆で話し合い、次の日の作業に活かすようにしている。

ヒヤリ・ハットが無い場合は、署から教えてもらった他の班や他署のヒヤリ・ハットの事例を自分たちのものとして分析、原因究明して内容をヒヤリ・ハット表に記入している。

### 4 無災害25年を振り返って班員の一言

班員一人一人から、今までなぜ無災害でこれたのかの反省を一言づつ述べてもらった。

(1) 無災害が長く続くと、一方ですべて災害を起こすかもという危機感、緊張感があり、それが危険なことへの予知につながっていたためと思う。

(2) 健康であったことが一番であったと思う。そのために、酒、煙草をひかえめにした。

(3) 家へ帰れば自分が大黒柱であり、家族のためにも絶対に怪我はされないという気持ちがあった。

(4) 「災害は出るときは出るんだから仕方がない」という気持ちではなく、自分たちはプロなのだから、災害は出されないという気持ちがあった。

(5) 作業における「うっかりミス」を無くし、ムリな作業や行動を取らないようにした。

(6) お互いが注意し合い、人の意見は素直に聞き入れた。

(7) 日常の生活でも安全について考えた。

また、お互いの「和」を大切にし、何事についても皆んなで話し合うこ

とが大事だと思った。

(8) 無災害が長く続いていると、一日でも多く無災害の日を続けたいという欲が出るので、一日一日が重要に思えた。

## 5 おわりに

我が班の安全活動は、「守るべきことだけ守っていればいいんだ」という考え方ではなく、自分たちで創意工夫してやるという全員の積極的な姿勢と、他人から頼まれてやることではなく、班員一人一人が自分自身のものであるという強い意識を持って行動してきた。

このことが班に定着し、無災害につながったものと確信している。

私たちは、今後も積極的な安全活動を進め、いつまでも災害のない、明るい造林班を持続できるよう、更に努力して行きたいと考えている。

写-1

安全目標の決定

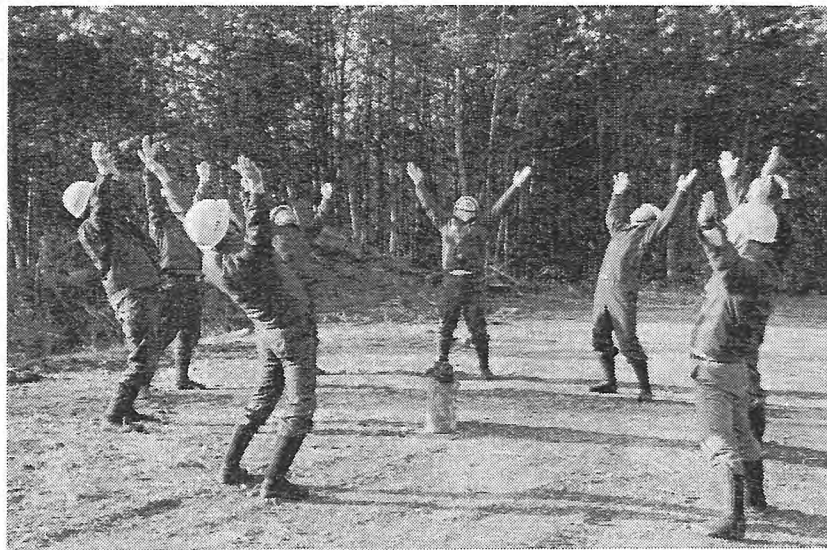


写-2

ミーティングの実施



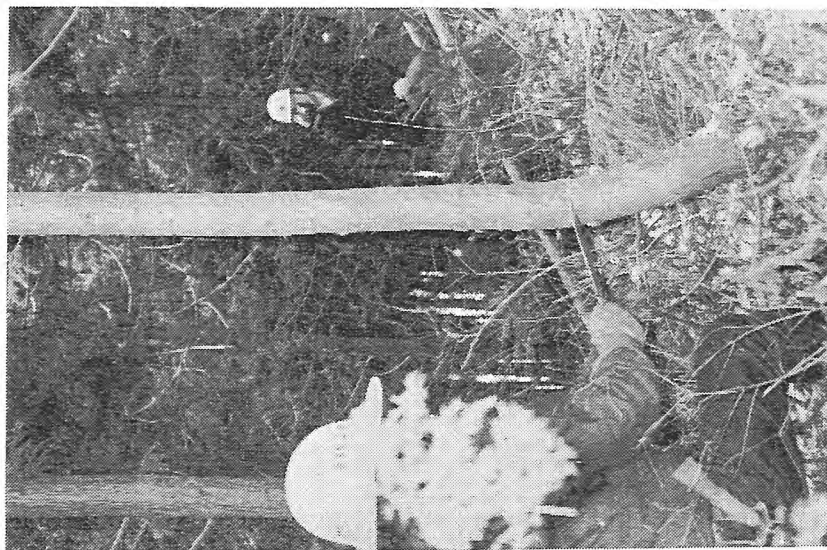
写-3  
体操のリード



写-4  
タッチアンドコール  
の実施



写-5  
ビデオの活用



写-6

「かっちゃ」の製作



写-7

「かっちゃ」製作品



写-8

「かっちゃ」の使用  
状況

